

# 徒手整復・固定開始から2～3週経過時に 骨片転位が更に減少した鎖骨骨折の一症例

藤田 孝明<sup>1)2)</sup> 米田 忠正<sup>2)</sup> 米田 實<sup>2)</sup>

1) 本部会員 2) 米田病院

## はじめに

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

鎖骨骨折は、整復位の保持が困難な場合もあり

再転位の予防に努めて治療が行われている事が多い

しかし、今回保存療法にて整復・固定開始から2～3週経過時に



骨折部の転位が徐々に減少した症例を経験

治療内容・経過を述べ

なぜそのような経過をたどったのか私見を加え報告する

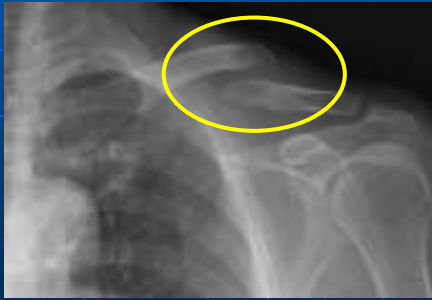
## 症例

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

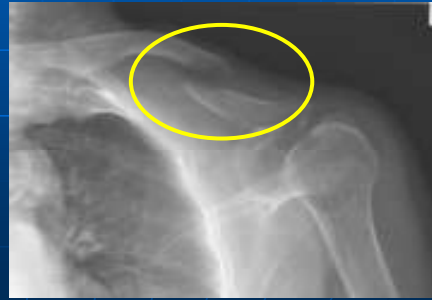
年齢:67歳 性別:女性

受傷機転:自転車にて走行中、自動車と接触して転倒

画像所見:X線写真上、左鎖骨中外1/3付近に骨折あり



正面



軸斜

## 治療経過

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

骨折非観血的整復術



鎖骨バンド



見本写真

三角巾・体幹包帯固定



見本写真

生活が家庭では困難な為翌日より入院加療開始  
保存的に経過観察

## 治療経過

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

初期整復後・1週



正面



軸斜

遠位骨片の下方転位残存していた

## 治療経過

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

2週



正面



軸斜

前回より整復位改善していた

## 治療経過

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

3 週



正面



軸斜

さらに整復位改善していた

触察では動揺性なくX線透視下でも動揺性消失

## 治療経過



3 週

包帯固定から胸部固定帯に変更

4 週

X線写真上にて転位増大なく仮骨形成が認められ

胸部固定帯除去

5 週

三角巾固定除去

7 週

X線写真上、骨癒合進行

退院とし、以後外来にて経過観察

10 週

鎖骨バンド除去

## 治療経過

### 《リハビリ》

3週 三角巾固定下での振り子運動



見本写真

4週 自動・介助運動の関節可動域訓練

屈曲70° 外転100°



屈曲150° 外転130°

受傷前に行っていた水泳にも復帰



## 考察

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

初期整復固定後

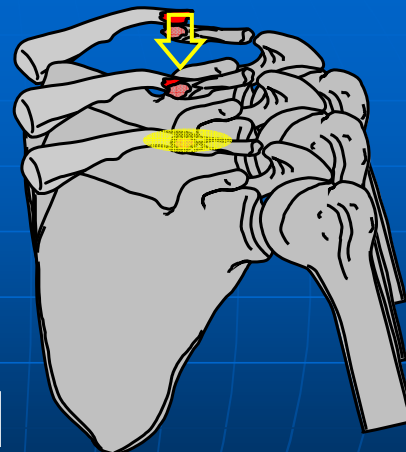


2週で転位の減少

3週目にて更に転位が減少



4週で良好な整復位での仮骨形成



初期固定から2～3週は骨折部が不安定であったが

3～4週で急速に安定化したと考えるのが妥当

## 考察

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

通常は整復位の状態をいかに保ち再転位を予防することが目標



整復後



整復後の転位が保たれる

転位増大が起こってしまう

整復位の改善

- ・ 再度徒手整復
- ・ 整復後の数日以内の外固定による自然整復

## 考察

米田病院 よねだクリニック  
<http://yoneda.or.jp/>

本症例 当初の整復固定後3週までに転位の減少



整復後



転位の減少



3週

大きな要因として考えられるもの……

症例への理解度が高く治療に対して協力的であったこと

入院加療により患部への負担を考慮した日常生活動作の指導で十分な観察の下で疼痛管理や体幹包帯等の固定管理ができたこと

後療法に関しても3週にて患部の安定

・負担の少ない上腕肩甲関節の動き

・肩甲骨内外転運動



見本写真



順調な可動域の改善が認められ水泳完全復帰

今後同様の症例があれば比較検討を試みたい

・整復位の保持に配慮した固定・管理を行い、

患者さんの十分な理解と協力を得て

固定後2～3週までの期間に整復位が更に改善した

鎖骨骨折の一症例を報告した。

